

令和5年(2023年)7月21日 一学期終業式

校長

みなさん、こんにちは。

この6月から7月にかけては、感染症よりも線状降水帯という言葉がニュースの頻出ワードとなっており、今週も東北の方ではかなり深刻な水害に襲われているようです。被災された方には心よりお見舞いを申し上げます。このような気象状況を目の当たりにして、地球環境に関する課題というのは、人類にとって最大の課題であるという意見に説得力があるように思われます…、と昨年の終業式でも申し上げました。

さて、とんぼ祭、お疲れさまでした。深志生の熱意、工夫、高いポテンシャル、底力、そういったものを存分に感じさせてもらった4日間でした。そして、終了後、燃え尽きた皆さんの姿を、そこここで目にしました。あれから10日、とんぼ祭ロス状態から気持ちの切り替えは進みましたか。皆さんの手元には、ナイスタイミングで、先輩たちの体験記である「黎明」が届いたのではないのでしょうか。先輩たちが個人情報晒して示してくれているものは、単なる合格体験記ではありません。それまでの高校生活でやってきたことを、どのように夏休み以降につなげたかが書かれていますし、まさに先輩たちの高校時代の生きざまが、そこには記されています。新しい一歩を踏み出すことに戸惑っているひとがいたら、ぜひ参考にして、自分なりのやり方を見出してくださいと思います。



さて、今年もあと10日ほどで、8月1日がめぐって参ります。

深志高校にとって、8月1日は決して忘れることができない日です。今から56年前の、1967年、昭和42年8月1日13時30分過ぎ、本校の2年生が学年の行事として集団登山を行っていた西穂高岳独標で落雷に遭い、11名の生徒の尊い命が奪われるという遭難事故が発生してしまいました。

2、3年生には、昨年、一昨年の1学期終業式の折にもこの事故のお話をしましたので、きっと記憶に残っていると思いますが、1年生は初めてですから、ぜひ記憶に留めていただきたいと思います。

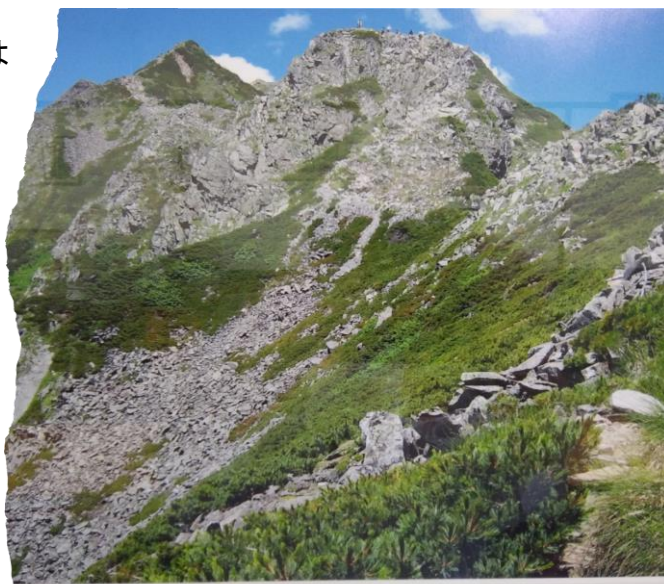
当時、本校では、毎年夏休みに2年生の希望者を対象に、西穂高岳登山を行っていました。西穂高岳というのは、長野県と岐阜県の県境にそびえる標高2909mの山で、最後の山頂までは、なかなか険しい道のりです。

事故の起きた昭和42年の2年生は、深志21回生の皆さんですが、参加希望者が多く、50人くらいずつ2班に分けて、前期と後期の2回で実施することになっていました。事故にあったのは、その前期の方でした。

事故の当日は快晴、前日上高地のベースキャンプに入り、早朝に出発して、気持ちの良い天気のもと、お昼ごろには西穂の山頂に着きました。写真(スライド)の一番奥の

尖がったピークです。この山頂まで到達したのは、生徒41人、先生5人の計46人のパーティーでした。

ところが、ここでそれまでの晴天とは打って変わってガスが立ちこめ始め、ぽつりぽつりと雨が降り出しました。雨具をつけて急いで下(くだ)りにかかったのが、午後12時40分頃だったそうです。1時間弱をかけて、一行は独標という大きなピークに差し掛かりました。写真に示した手前の台状になっているピークが独標なのですが、この独標をこえれば、ハイ松地帯から間もなく西穂山荘に至りますので雨も避けることができます。



独標というのは独立標高点という国土地理院が定めた高さを観測するための基準となる地点のことで、三角点や水準点の間だと思ってください。高さ10メートル~20メートルくらいの岩山で、両側が絶壁となっている狭い尾根ですので、西穂高岳の山頂に行くのにも帰るのにも、尾根伝いにそのピークを登って降りる必要があります。迂回することはできません。写真にみえるのがその南側の斜面になります。雨の中の復路の一行は、奥の北側から一列で登り始め、手前の南側におりてくる形になります。

雨はだんだんと強まってきて、先頭が独標に差し掛かるころには、遠くで雷鳴も聞こえ始めました。しかし岩場がむき出しの尾根には逃げ場もなく、一行は何とか独標を越えて、その先のハイ松地帯へ逃げ込もうとしていた矢先、落雷は深志高校の一行を直撃してしまいました。

落雷があった時、すでにピークを越え、南側の尾根にいた方が10名、台状の独標頂上にいた方が8名、そしてこの写真(スライド)の矢印で示した先の北側の尾根を登っていた方が23名、独標に入る手前にいた方が5名いらっしゃいました。亡くなった方々11名は、すべて北側の斜面を登っていた方でした。以上が、本校の悲しく痛ましい事故の概要です。



毎年、同窓生の有志の方々が、8月1日に西穂に慰霊登山を行っています。令和に入り3年ほど感染症と地震のために見送りましたが、昨年より再度OB OG有志の方々、さらには本校の山岳部によって慰霊登山が行われており、今年も実施予定です。

被雷された方の中に、その後県内高校の教員となり、既に退職されていますが、退職

時には本校で教壇に立たれていたS先生がいらっしゃいます。S先生は北側斜面を登り始めたあたりで被雷されましたが、自らもケガをし、治療に数カ月を要したのみならず、自分の直後を歩いていた同級生がお亡くなりになるという体験をされた方でもあります。S先生は事故の12年後から、慰霊の思いにいざなわれて毎年のように8月1日に独標に登られたそうです。時にはご自身が自分についてふがいなく感じているときの登山もあったのだそうですが、そんな時は、部活や講座でともに過ごしていて亡くなった仲間たちの高校生当時のままの顔が浮かび、「何やっているんだ、お前」とか、「しっかりしろよ」という、彼らからの励ましの言葉が聞こえてきたそうです。一方、50歳を過ぎたころからの登山では、毎年のように一緒に登る仲間の皆さんと、互いの元気な姿を確認し、喜び合うことが目的の一つとなったそうです。「また来年も会おうよ」と互いに声をかけ、亡くなった11人の友にも、そのように声をかけるのだそうです。

そんなS先生の話を知ったり書いたものを読む中で、私も自分に対して、今、目の前に関わっている人を大切にすること、今という時間を精一杯生きるということ、自分もまた生かされているのだということ、あらためて自分に言い聞かせています。そしてそれを皆さんにもお伝えしたいと思います。

今年も8月1日、午後1時30分に、講堂南の慰霊碑前で追悼式を行います。

毎年ご遺族や同級生などの関係者の皆さんが集まります。生徒の皆さんも、お時間の都合のつく方は、ぜひ慰霊式まで足を運んでみてください。また補習中の3年生も黙祷へのご協力をお願いいたします。

夏休み中には8月15日、終戦記念日もあります。3年生は昨年広島を訪れ、平和について多くのことを感じたと思います。戦争は途方もない命と幸せな暮らしと人権を奪います。しかし、今もなお、戦争の惨禍により大変多くの命が失われています。8月は平和と命について考える月でもあります。ぜひ自分の命の大切さについても考えてみてください。

深志高校にいと、ついつい周囲と比較してしまい、自分は劣っているのではないかなど、変わっているのではないかなどと考えて落ち込んでしまうこともあるのではないのでしょうか。でも皆さん一人一人が輝きを持っていることは間違いなく、それを特定の物差しで測り比べるなんてできません。自分が頑張ったな、とか、ちょっと良かったな、と感じた瞬間に自分を大いにほめてあげましょう。そしてそれを、さらに伸ばすことのできるよう、取り組んでみて下さい。

それでもなお、切なさを感じる場合は、どうぞ周囲の誰か、または先生たちや友達の誰かに相談してください。苦しいときはSOSを出して構いません。相談して少しでも気が楽になれば、エネルギーがわいてきます。ぜひ自分を大切にしてください。そして、夏休み明けにはまた元気に顔をそろえてほしいと、私は願っています。

さて、最後にもう一つ報告をさせて下さい。すでに報道等を通じてご存じの方も多いと思いますが、7月上旬に、千葉市において第64回国際数学オリンピックが開催され、

その大会に日本代表として1年4組の狩野慧志さんが出場されました。狩野さんは昨年度末に行われ、全国で約7000人程度が参加した国内予選に参加し、その中から日本代表6人のうちの1人に選ばれました。千葉で行われた大会には、112の国と地域から、約600人の選手が集い、数学の問題に挑みました。そしてこれもすでにご存じの方も多いと思いますが、大会の結果、狩野さんは上位の成績の者に与えられる銀メダルを受賞しました。本当におめでとうございました。この場をお借りして、あらためて私からお祝いの言葉を申し上げたいと思い、報告をさせていただきました。

私からの話しは以上です。少し長くなりましたが、聞いていただきありがとうございました。